

ISO/IEC/JIS Plastics

事務局便り 2014年9月

平成25年度規格部会報告

規格部会（ISO/TC61、ISO/TC138及び電気材料安全関係）は、日本工業標準調査会（JIS C）標準部会の国際標準化戦略に則り、関係機関・団体・企業との一層緊密な連携のもと国内外の標準化活動を推進している。

ここでは、平成25年度の活動実績および平成26年度の活動計画を紹介する。

1. 国際幹事国引受け

現在、4件の幹事国を引き受けているが、現体制のなか今後もこれをひき続き維持してゆく。

現状では、更に幹事国を獲得することは、現体制では困難であるが、長期的観点から、コンビナー人材の育成をはかり体制固めを行っていく。

2. 国際幹事国活動

TC61/SC11（プラスチック製品）、SC12（熱硬化性樹脂）、SC13（複合材料及び強化用繊維）およびTC138（プラスチック管、継手およびバルブ類）の国際幹事として、規格開発プロジェクトの円滑な推進を進める。

平成26年度は、ISO/TC61国際会議は米国・ホノルル（9月22日～9月26日）で開催され、ISO/TC138国際会議は、韓国・ソウル（10月20日～10月24日）で開催される。日本が議長を務めるTC61/SC11、SC12、SC13及びTC138の会議の円滑な開催・運営を図る。

3. 国際標準開発活動

平成25年度のTC61の審議件数は173件、TC138は70件と例年並みであるが、TC61では規格開発プロジェクト約200件の内、44件が日本発の国際提案で2割以上を占める。これは、依然としてTC61内の日本の地位が大であることを示している。中でも日本が幹事国をとるSC11での導電性接着剤に関する標準化9件、バリアー材の水分透過度試験法に関する標準化3件、異種材料複合体特性評価試験法に関する特性評価試験法に関する標準化4件は成長が期待される産業分野だけに注目されている。

平成26年度は、円滑な幹事国業務（3SC、1TC）活動に努めこれを維持する。

4. 国際標準開発活動

平成25年度は、継続案件として次の6件の国際標準開発テーマに取り組んだ。

- ①PP/PE再生混合品の標準化
- ②薄膜等高性能プラスチック試験方法
- ③共同開発(異種材料複合体)

④次世代炭素繊維及び複合材料

⑤酸素指数試験方法

⑥金属CFRP（CFRTP）異種材料接合体

その内、④⑤は平成26年度も継続する。また、③⑥は統合し新規案件として平成26年度は取り組む。

平成26年度の新規標準開発テーマとしては下記の3件に取り組む。

①複雑系高性能プラスチックの物理化学的試験方法に関する国際標準化

②炭素繊維強化プラスチックの試験方法に関する国際標準化

③異種材料複合体の特性評価試験方法の国際標準化

5. J I S原案作成活動

平成25年度から、作成区分が以前の3区分制に戻り作成することとなり、原案作成は次のとおりであった。

A期（H25/4～H26/3）：

1件（制定）のJ I S原案を作成した。

B期（H25/8～H26/7）：

6件（制定2件、改正4件）のJ I S原案を作成中である。

C期（H25/12～H26/11）：

13件（制定2件、改正11件）のJ I S原案を作成中である。

平成26年度は以下の通りである。

A期（H26/4～H27/3）：

3件（制定1件、改正2件）のJ I S原案を作成中である。

B期（H26/8～H27/7）：

9件（制定1件、改正8件）のJ I S原案作成を申請している。

C期（H26/12～H27/11）：申請を予定している。

6. 電気材料安全・規格関係

I E C / T C 8 9 国際会議やU L のS T P への委員派遣などにより、電気製品の安全規格及びプラスチック関連試験規格の制定並びに改訂の動向を把握すると共に、業界の意向反映を行ってきた。平成26年も、国内団体と連携してゆく。

以上